

①	船会社による寄港地の絞り込みが激化するなか、基幹航路・アジア航路等を維持・拡大するためには、どのような機能強化を図るべきか	
分類	施策の方向性	施策のイメージ
貨物	貨物をこれまで以上に「集貨」する 貨物を新たに「創貨」する	<ul style="list-style-type: none"> ・内航船等のフィーダー専用ふ頭の整備と外貿ふ頭とのシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入) ・内貿ふ頭、鉄道貨物ターミナルと外貿ふ頭とのシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入) ・インランドデポと外貿ふ頭間におけるシャトル便の運行(自動運転、隊列走行、共同輸送) ・河川を活用した内陸部へのはしけ輸送 ・新たな道路ネットワークの構築(広域ネットワーク、臨海部へのアクセス、港内道路) ・重要物流道路の拡充 ・海上コンテナ車両が特別の許可なく通行できる環境の整備 ・国内貨物の集荷に向けた荷主、背後圏の工場、船社へのポートセールス ・内航航路ネットワークを活用した農林水産物・食品の集荷促進 ・東南アジア-北米のトランシップ貨物等の取り込みに向けた荷主・船社へのポートセールス ・東京港利用インセンティブ制度の拡充 ・海貨を取扱う倉庫の誘致、倉庫の建替え促進 ・海貨の高付加価値化に資する高機能倉庫の誘致 ・冷蔵貨物の取扱量増加に対応したリーファープラグの増設、共同利用
施設	大型船に対応する 自動運航船に対応する 寄港船の滞在時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> ・大型船に対応した新規ふ頭の整備(既定計画の変更を含む) ・既存ふ頭の再編整備(岸壁等の増深、連続バース化) ・クレーンの大型化(揚程高、ブーム長) ・自動運航船の寄港を可能とする施設の整備 ・ヤードの拡張、ヤードの高度利用化、ヤードレイアウトの見直し(ターミナル処理機能の向上) ・「ヒトを支援するAIターミナル」の実現に向けた施設のIoT化(センサーの設置、クレーンの高度化)
運営	寄港船の滞在時間を短縮する ふ頭周辺の交通混雑を緩和する 貨物引取の利便性・生産性を高める 入港料、係船料等のコストを下げる	<ul style="list-style-type: none"> ・AIを活用したコンテナプランニング、事前荷繰り、搬出入事前予約制などの実施 ・港湾のデジタルツイン化による貨物流動の予測、最適なソリューションの提示 ・各ふ頭におけるターミナルオペレーションシステムの一体運用、バース・クレーンの規格統一化・相互融通(繁忙期・遅延時対応) ・ターミナル間のシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入) ・ゲートオープン時間の拡大 ・サイバーポート(港湾関連データ連携基盤)の導入 ・貨物のトレーサビリティ(見える化)の促進 ・減免等のインセンティブ制度の拡充
環境	環境に配慮した船舶の受入体制がある	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上電源設備やLNGバンカリングなど、船舶への次世代エネルギー(カーボンニュートラルな電力)供給設備の整備
防災	発災時にも港湾機能を維持し、安全を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震強化岸壁、免震クレーンの整備 ・港内の無電柱化の推進 ・ターミナル機能を維持する電力バックアップ機能の確保 ・ふ頭の浸水対策の強化(コンテナの流出防止、電気設備の機能喪失への対策、ふ頭用地の嵩上げ) ・発災時における港湾間の連携による物流網のリダンダンシーの確保 ・関係機関との連携による感染症対策、特定外来生物対策の強化 ・ICT等を活用した情報共有及び発信

「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

② 東京港最大の課題である、コンテナターミナルゲート前の交通混雑を解消するためには、どのような取組が必要か

分類	施策の方向性	施策のイメージ
施設	ゲート処理時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> ・共同ゲート及び車両待機場の整備 ・ICT技術を活用した搬出入情報の処理(サイバーポート(港湾関連データ連携基盤))を可能とする設備の整備
	ヤード内荷役時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤードの拡張、ヤードの高度利用化、ヤードレイアウトの見直し(ターミナルの処理能力の向上) ・「ヒトを支援するAIターミナル」の実現に向けた施設のIoT化(センサーの設置、クレーンの高度化)
	港湾関連施設間におけるコンテナ輸送を効率化する	<ul style="list-style-type: none"> ・バンプール・シャーシプールのターミナル周辺への集約化 ・バンプールとヤードのシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入) ・ターミナル間のシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入)
運営	ゲート処理時間を短縮する (リードタイムを短縮する)	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出入事前予約制の実施 ・ICT技術を活用した搬出入情報の処理(サイバーポート(港湾関連データ連携基盤)の導入) ・共同ゲートの運用
	ヤード内荷役時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> ・AIを活用したコンテナプランニング、事前荷線りなどの実施(「ヒトを支援するAIターミナル」) ・港湾のデジタルツイン化による貨物流動の予測、最適なソリューションの提示 ・各ふ頭におけるターミナルオペレーションシステムの一体運用 ・ヤードクレーンの規格統一化・相互融通(繁忙期・遅延時対応)
	トラックの来場時間を平準化する	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出入事前予約制の実施 ・ゲートオープン時間の拡大
	トラックの来場台数を削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・内航船舶・はしけ・鉄道による貨物輸送の促進 (内航船等のフィーダー専用ふ頭の整備と外貿ふ頭とのシームレスな接続) (内貿ふ頭、鉄道貨物ターミナルと外貿ふ頭とのシームレスな接続) (河川を活用した内陸部へのはしけ輸送)
	港湾関連施設間におけるコンテナ輸送を効率化する	<ul style="list-style-type: none"> ・バンプールとヤード間におけるAGV等によるコンテナ輸送 ・シャーシの共同利用 ・インランドデポと外貿ふ頭間におけるシャトル便の運行(自動運転、隊列走行、共同輸送) ・インランドデポと鉄道貨物駅との連携(共同輸送) ・港湾のデジタルツイン化による貨物流動の予測、最適なソリューションの提示

「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

③ 限られた港湾空間で、機能強化を果たすためには、大井・青海・品川コンテナターミナルの再編において、どのような取組が必要か

分類	施策の方向性	施策のイメージ
貨物	貨物をこれまで以上に「集貨」する	<ul style="list-style-type: none"> ・内航船等のフィーダー専用ふ頭の整備と外貿ふ頭とのシームレスな接続（道路の専用レーン化、AGVの導入） ・内貿ふ頭、鉄道貨物ターミナルと外貿ふ頭とのシームレスな接続（道路の専用レーン化、AGVの導入）
	貨物を新たに「創貨」する	
施設	大型船に対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・大型船に対応した新規ふ頭の整備（既定計画の変更を含む） ・既存ふ頭の再編整備（岸壁等の増深、連続バース化） ・クレーンの大型化（揚程高、ブーム長）
	自動運航船に対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・自動運航船の寄港を可能とする施設の整備
	寄港船の滞在時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤードの拡張、ヤードの高度利用化、ヤードレイアウトの見直し（ターミナルの処理能力の向上） ・「ヒトを支援するAIターミナル」の実現に向けた施設のIoT化（センサーの設置、クレーンの高度化）
	ゲート処理時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> ・共同ゲート及び車両待機場の整備 ・ICT技術を活用した搬出入情報の処理（サイバーポート（港湾関連データ連携基盤））を可能とする設備の整備
	ヤード内荷役時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤードの拡張、ヤードの高度利用化、ヤードレイアウトの見直し（ターミナルの処理能力の向上） ・「ヒトを支援するAIターミナル」の実現に向けた施設のIoT化（センサーの設置、クレーンの高度化） ・各ふ頭におけるターミナルオペレーションシステムの一体運用 ・ヤードクレーンの規格統一化・相互融通（繁忙期・遅延時対応）
	港湾関連施設間におけるコンテナ輸送を効率化する	<ul style="list-style-type: none"> ・バンプール・シャーシプールのターミナル周辺への集約化 ・バンプールとヤードのシームレスな接続（道路の専用レーン化、AGVの導入） ・ターミナル間のシームレスな接続（道路の専用レーン化、AGVの導入）
環境	環境に配慮したカーボンニュートラルポートを実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナル内施設における次世代エネルギー利活用の拡大 ・陸上電源設備やLNGバンキングなど、船舶への次世代エネルギー（カーボンニュートラルな電力）供給設備の整備 ・内航船やはしけ・鉄道の活用など、環境にやさしい輸送モードの利用を促進 ・港湾荷役機械や構内トレーラーへの燃料電池導入 ・トレーラー等向け水素ステーションの整備 ・施設の上部を利用した太陽光発電 ・SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組の推進
防災	発災時にも港湾機能を維持し、安全を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震強化岸壁、免震クレーンの整備 ・港内の無電柱化の推進 ・ターミナル機能を維持する電力バックアップ機能の確保 ・ふ頭の浸水対策の強化（コンテナの流出防止、電気設備の機能喪失への対策、ふ頭用地の嵩上げ）

「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

④	狭隘な東京港において、道路や倉庫、バンプール・シャーシプール等の機能的配置を実現するためには、どのような取組が必要か
---	--

分類	施策の方向性	施策のイメージ
施設	コンテナターミナルの機能強化に資する施設配置を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな土地造成や土地交換による用地の創出 ・バンプール・シャーシプールのターミナル周辺への集約化 ・バンプールとヤードのシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入) ・ターミナル間のシームレスな接続(道路の専用レーン化、AGVの導入)
貨物	東京港の機能強化に資する倉庫配置を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな土地造成や土地交換による用地の創出 ・海貨を取扱う倉庫の誘致、倉庫の建替え促進 ・海貨の高付加価値化に資する倉庫の誘致
環境	環境に配慮したカーボンニュートラルポートを実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の上部を利用した太陽光発電

⑤	労働力不足が危惧される中、働きやすい港づくりを行い、港湾の生産性を向上させるためには、どのような取組が必要か
---	--

分類	施策の方向性	施策のイメージ
快適	誰もが安心して働ける職場環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒトを支援するAIターミナル」の実現 ・みなとの駅の整備(コンテナ車両等が駐車可能、コンビニ・食堂・休憩・交流施設) ・トイレや休憩施設等の充実 ・保育所・託児所の整備 ・ユニバーサルデザインの推進 ・DXの推進により、安全で快適な生産性の高い職場環境の実現
	通勤手段を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段の充実(路線・頻度・定時性の確保) ・自動運転等の最新交通手段の導入
防災	災害発生時の安全性を確保する 特定外来生物、新型ウイルスに対する 防御機能を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT等を活用した情報の共有及び発信 ・ふ頭の浸水対策の強化(コンテナの流出防止、電気設備の機能喪失への対策、ふ頭用地の嵩上げ) ・耐震強化岸壁、免震クレーンの整備 ・港内の無電柱化の推進 ・関係機関との連携による感染症対策、特定外来生物対策の強化